

最上町高齢者学級

「いきいき大学」「ひまわり大楽」「八森ふれあい大学」

最上町

1 はじめに

最上町では高齢者学級を3つ開校している。向町地区対象の「いきいき大学」、富沢地区対象の「ひまわり大楽」、大堀地区対象の「八森ふれあい大学」である。ひまわり大楽、八森ふれあい大学は、実行委員を組織し年間の活動を決定している。いきいき大学については、令和4年度までは実行委員会を組織し活動をしてきたが、実行委員の減少に伴い、今年度より教育委員会職員が主体となって活動を行っている。

2 事業のねらい

高齢者学級は、活動を通して地域コミュニティの充実や健康づくりを目的としている。また、高齢者に幅広く学びの機会を提供し、自ら主体となる学習活動を支援することをねらいとしている。

3 具体的な取り組み

○いきいき大学

今年度のいきいき大学は、実行委員会を組織せず教育委員会職員が主体となって活動を実施した。今年度の活動回数は5回で、県外及び県内視察研修やグランドゴルフ大会などを実施した。参加者数は累計59名となる。



認知症予防講座】



【県外視察研修 かまぼこ作り】



【県内視察研修 防災学習館】



【輪投げ大会】

○ひまわり大楽

ひまわり大楽は、累計175名の参加があった。コロナの5類引き下げにより3年ぶりの県外、県内視察研修や障がい者施設の清掃ボランティア、モルック大会を実施した。



【グランドゴルフ大会】



【モルック大会】

○八森ふれあい大学

八森ふれあい大学は、累計116名の参加があった。活動回数は6回。活動内容は、視察研修やグランドゴルフ大会。大堀小学校の児童と一緒に田植えや稲刈り、スポーツ交流などの活動を実施した。



【稲刈り】



【大堀小学校児童とのスポーツ交流】

4 成果と課題

○成果

今年度については、3つの高齢者学級が予定していた講座をすべて実施することができた。活動内容については参加者の意見を取り入れ、ニーズに合った講座を実施できた。

●課題

向町地区のいきいき大学は、参加者数の減少が見られる。広報等での募集や参加者の友人、知人への呼びかけを続けていきたい。

5 おわりに

今年度の高齢者学級については、多くの参加者、多くの講座を実施することができた。また、講座をしていく中で参加者同士の会話や笑顔をたくさん見ることができた。この活動は体を動かし、たくさん会話をする人が多いので、参加者の健康づくりに繋がっていると考える。来年度も多くの方に参加してもらい、たくさんの講座を実施していきたい。

第69回 町民大運動会

最上町

1 はじめに

毎年、秋分の日に実施している、町恒例行事の一つであり町内各集落対抗による「町民大運動会」を、今年度5年ぶりに開催した。天候不順や、その後の度重なる新型コロナウイルス感染防止による中止が続いたため、今回は久々の開催となった。この中止期間に、各集落においては、少子高齢化が進んでいたため、例年にも増して出場選手の確保が困難であり、参加チームが減少傾向にあるとの声が上がっていた。そのため、4月末に「町民大運動会」が町内の子供から大人まで幅広く集い、スポーツに親しむイベントになるようにと、各集落区長に対してアンケート調査を行い、意見を聞きながら開催方法の検討を行った。そして、本大会の実施に至った。

2 事業のねらい

これまで積み上げてきた69年のまちづくりと歴史を土台にしながら、次代を担う青少年や若者を中心に多くの町民が結集し、スポーツを通して地域や世代間の交流を図り、最上町の新たなまちづくりのイベントとしてふさわしい大会を目指して開催する。『歴史を刻むその一歩、輝く汗は最上の誇り』を大会スローガンに掲げた。

3 具体的な取り組み

先に述べた町民大運動会開催に向けたアンケートの結果として、「運動会に参加できる」と答えてきた集落は、全体の20%に当たる集落数だった。「参加できない」と答えた集落の主だった意見としては、「戸数が激減」「子供がいない」「高年齢」「各家庭において、子供のスポ少行事が優先となっており、参加は無理」との回答であった。また、世帯数の多い集落においても「選手の確保が難しい」「今の時代、スポーツイベントがベストなのか」「集落人口の減少のため、見直しではなく、中止、廃止がよい」「必要性を感じない」などの厳しい意見も出た。

このような意見を踏まえ区長連絡協議会、町スポーツ推進委員協議会、町教育委員会において検討を行い、今年度は、多くの町民の皆さんに参加してもらえるように大会規則を見直したうえで、実施することとした。8月末に各集落区長、並びに各集落スポーツ協力員を参集し、あらためて町民大運動会説明会を行い、その後、運動会参加への案内、併せて参加申込書を添えて配布した。

見直した項目としては次の通りとなる。

- (1) 前回までの各集落対抗戦、並びに競技別による点数集計は、一切行わない。
- (2) 団体競技（団体合同綱引き、チーム対抗まり入れなど）については、集落をもとに参加者を同数に振り分けて、行うこととする。
- (3) 雨天の場合は、最上中学校体育館を会場に開催する。（雨天中止とはしない）

上記の通り、集落対抗の総合順位がつくこともなく、今までよりも気楽に参加できるような内容とし、集落ごとの回覧により運動会参加案内、参加申込を周知し、多くの町民の参加を募った。さらに、町内のスポーツ少年団対抗、中学校の部活動対抗となる競技を行うことで、会場の盛り

上げを図り、未就学児・保護者を対象とした種目を取り入れることで、参加者、並びに観客の増員を目指した。

4 成果と課題

今大会においては、前回大会（64回）の参加集落22に対して、参加集落が4集落と男・女バスケットボール部の部員を含め114名の参加者となった。（但し、競技種目「ちびっこ集まれ」の参加者である未就学児・保護者、並びに「みんなで最上町音頭」に参加いただいた最上町音頭保存会の方、応援に来て飛び入りで参加した方の人数は含まれない。）

競技種目においては、強い競技性を前面に出すことのないよう工夫しつつ、一部内容を変更しながら実施した。

従来の100m徒競走は、小学1～3年男女の部を60m走に、小学4～6年男女、中学生以上オープン参加者は100mとし、点数をつけることなく、今回においては各自のタイムを計測することにより、希望参加者には、そのタイムを知らせることにした。

団体合同綱引きは、集落に関係なく出場選手を2チームに分けての2本勝負とした。結果、1勝1敗となり、3本目での決勝では、参加した小学生から大人まで、大きな掛け声を出しあつての大接戦となり、会場内は多いに盛り上がりを見せた。

2チーム対抗まり入れ競争では、なんと1個差で勝敗が決まり、参加者、応援者共々、満面の笑顔を見せた。

今大会一番に盛り上がったのが、レクリエーション輪投げゲームで、集落に関係なく5人1組の混合チームでの団体戦である。いつの間にか、飛び入りで町議会議員、競技役員、中学生チームが参加し、和気あいあいの楽しいゲームとなった。

合計7種目を実施したが、全ての種目に参加し大会を盛り上げてくれた小学生、中学校部活で唯一参加してくれた男・女バスケットボール部の選手たちには大感謝である。児童、生徒たちが多く参加してくれるだけで、場面、場面で大いに賑わいをみせ、競技を楽しいものにしてくれた。



今大会開催においては、長引く新型コロナウイルス感染症対策による、数年間の大会中止の影響が多少なりともあったことは否めない。各集落において「少子高齢化による参加者の集約がより困難となった」「町民大運動会開催の賛否両論」などの問題が表面化した。

非常に難しい問題のため、今後は、町区長連絡協議会を主体として各関係団体が話し合いの場を設け、解決策を見出すことが重要である。さらに、今後の展開として町民大運動会を継続していくのか、新たにレクリエーション的なスポーツ事業に変更していくのかを検討していく時期に来ているのは確かである。

来年度は、町制70周年を迎えるため、第70回記念大会としての開催となる。記念大会にふさわしく参加者も大勢集まり、賑やかで活気のある大会となるよう準備をしていく必要がある。

鮎釣り体験講座 in 舟形

舟形町

1 はじめに

舟形町は、最上郡の南端に位置し、南北に6.5キロメートル、東西に27.4キロメートルと南北に狭く、東西に細長い地形となっている。そこに一級河川である「最上小国川」が流れ、町を代表する天然の「鮎」が生息している。毎年9月には、町の大きなイベントの一つである「若鮎まつり」を開催している。町の特産品である鮎の販売や、子ども鮎つかみどり体験などの催し物を行い、町全体で盛大に盛り上げ、地域の活性化に繋げている。

この度の「鮎釣り体験 in 舟形」は、最上小国川清流未来振興機構の共催と小国川漁業協同組合、フィッシングちゃっか屋、(株)がまかつの協賛をいただき開催することができた。

2 事業のねらい

この事業は、地元の中学生と町職員を対象に舟形町の伝統釣法である「鮎の友釣り」を通じて、町内の自然と文化を体験してもらうことを目的に開催した。また、釣り体験終了後に、参加者全員で最上小国川の河川清掃ボランティアを実施し、環境美化の運動に取り組むことで、環境保護意識の向上や郷土愛の醸成をねらいとしている。

3 具体的な取り組み

事業内容 開催日程：令和5年8月27日（日）

会 場：舟形町一の関大橋河川敷

参加者：中学生 22名

町職員 12名

講師 15名

内 容：鮎の友釣り体験、河川清掃ボランティア活動

(1) 鮎釣り体験講座 in 舟形の開会式

①開会式のあいさつで舟形の自然と文化を学ぶ機会となった

②講師より伝統釣法である「鮎の友釣り」の指導を受けた



(2) 鮎釣り体験

- ①初めての鮎釣りに挑戦した
- ②参加者の多くが「鮎」を釣り上げた



(3) 最上小国川の河川清掃ボランティアと閉会式

- ①参加者全員で最上小国川のゴミ拾いを行った
- ②閉会式と記念撮影



4 成果(◎)と課題(△)

- ◎参加者が鮎釣り体験を通じて、自然と文化を体験することができ、郷土愛の醸成にも繋がった。
- ◎最上小国川の河川清掃ボランティア活動で、河川がきれいになり、環境保護意識が高まった。
- ◎地域の方が鮎釣りの指導者となり、世代を超えた交流に繋がり、参加者との親睦を深めていた。
- △参加者の募集範囲を地元の中학생と町職員に限定して開催したが、今後は募集範囲の検討が課題である。

5 終わりに

舟形町を代表する「鮎」が生息する最上小国川の環境保護に力を入れ、次世代へ自然と文化を継承していくことが大切である。そのためには、次世代を担う子どもたちに町の魅力と環境保護の重要性を伝えていくことが求められる。今後も本町の自然の恵みに感謝を忘れず、鮎釣り体験を幅広い世代に伝承しながら、次世代を担う人材育成と地域の活性化を目指していきたい。

第31回舟形町スポーツフェスティバル

舟形町

1 はじめに

このイベントは、「べにばな国体」の開催を契機として平成5年度に始まり、今年度で31回目を迎えた。毎年、スポーツの日の前日に開催している。

競技種目は7種目あり、その内の5種目は町スポーツ協会加盟団体が競技運営を担っており、補助役として町スポーツ推進委員を配置し実施しているイベントである。

競技種目は以下のとおり。

競技種目	対象	会場
ソフトバレーボール（団体）	中学生以上の男女	舟形中学校体育館
ソフトボール（団体）	中学生以上の男女	舟形中学校グラウンド（小雨決行）
グラウンド・ゴルフ（個人）	18歳以上の一般男女	若あゆ温泉多目的広場
ターゲットバードゴルフ（個人）	中学生以上の男女	十二河原河川公園内（小雨決行）
ラージボール卓球（個人）	小学生以上の男女（高校生を除く）	B & G 海洋センター体育館
モルック（団体）	小学生以上の男女	舟形小学校ピロティ
健康吹矢（団体）	小学生以上の男女	B & G 海洋センター体育館

2 事業のねらい

町民の健康づくり、体力の保持増進を図り、相互の親睦と融和を深めるとともに、スポーツレクリエーション活動の和を広げ、明るく生き生きとした町民生活の一層の充実を図る。



（健康吹矢）



（ラージボール卓球）

3 テーマとの関連・工夫等

町で事業を実施するには関係団体の協力がなくては実行できない。各競技の運営を担っている町スポーツ協会加盟団体の現在の活動は、練習会や大会等を行政主導ではなく自主的に実施し、自立した協会運営を行っている。そのため、スポーツフェスティバルの競技運営も自分達がやるのだという自覚があるため、スムーズな運営がなされている。

屋外競技は天候に左右され雨天の場合は中止となってしまいが、申込時に予め第2希望をとっているため、参加種目を変更することが可能であり、イベントに必ず参加できるようにしている。そういった点において、参加者数の確保にもつながっている。

参加種目の変更

ソフトボールは小雨決行だが中止と判断された場合は第2希望種目へ参加。

(当日の天候状況に対応するため、申込時に予め第2希望種目を選択しておく)



(モルック)



(ソフトボール)



(ソフトバレーボール)

4 成果と課題

少子高齢化社会等により、年々参加者の確保には苦慮しているが、町民の健康づくり、体力の保持増進、相互の親睦が図られ、晴天の下盛大に開催することができ、当初の目的を達成することができた。

新型コロナウイルス感染症の5類移行とはなったが、まだ人が集まるような場所への抵抗感はあるように思われる。

今後の課題として、関係団体と協力して参加者の増加に努め、スポーツの習慣化が図れるよう、更なる事業の発展に繋げていきたい。



(グラウンド・ゴルフ)



(ターゲットバードゴルフ)



(開会式)